

3 古墳時代の遺構

(1) 打込み柱建物跡

SB 14 (第61図・図版43・44)

E区の中央やや西寄りで、SG 1 1 の東側約 7 mに位置する。南北 3.3 6 ~ 3.4 8 m、東西 3.3 2 ~ 3.4 0 mの 1×1 間の打込み柱建物跡で、南北の中軸線は N-1 8 -1 E である。柱の太さは $14.4 \sim 15.6$ cm を測る。樹種は栗で、 $1/3 \sim 1/4$ 割材を整形して用いる。検出面からの深さは $55 \sim 84$ cm で、4 本すべてが X 層まで打ち込まれる。

(2) 土坑

SK 13 (第62図・図版45)

E 区中央付近の北壁際に位置する。一部調査区外になるが、平面プランは不整な楕円形を呈し、東西 2.1 m、南北 2.5 m以上を測る。検出面からの深さは 18~20 cm を測り、緩やかな船底状となる。2層目には炭化物や土器の破片を多く含み、底面上からは内黒の高坏(2)などが出土した。

SK 15 (第62図・図版42)

E 区東部の北壁際に位置する。ほぼ完形の壺(37)が単独で出土した。土器は底部を北東に向け、ほぼ真横に寝た状態で検出された。伴出する遺物はない。

(3) 川跡・溝跡

SG 11 (図版43)

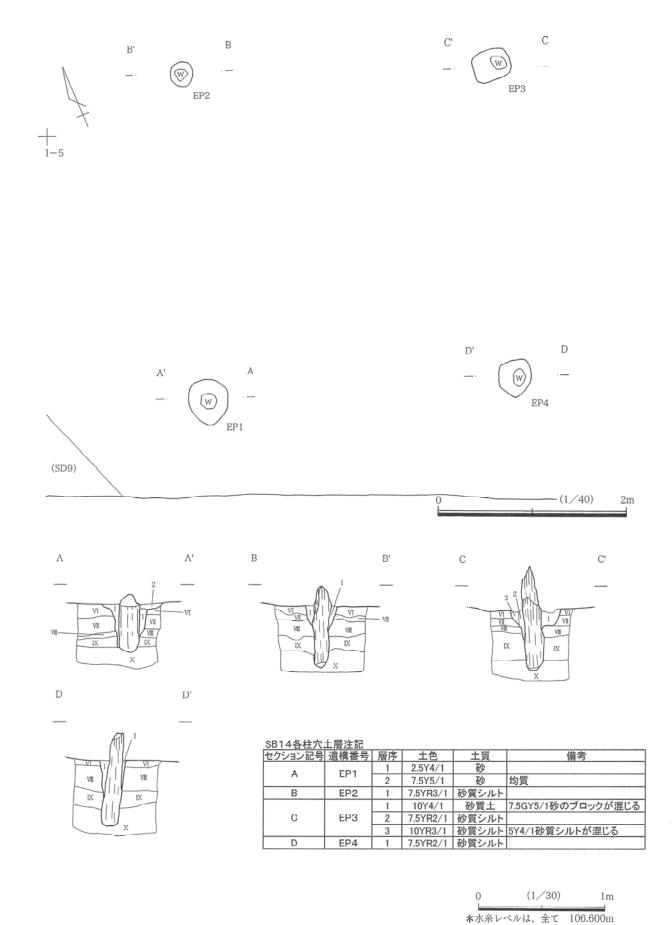
 $E \cdot F$ 区のほぼ中央付近で検出された。幅は2.8~4.2 m、検出面からの深さは75~83 cm を測り、南から北へ流れる。覆土中からは土師器の破片や自然木などが出土する。

SD 3 (第63図・図版45)

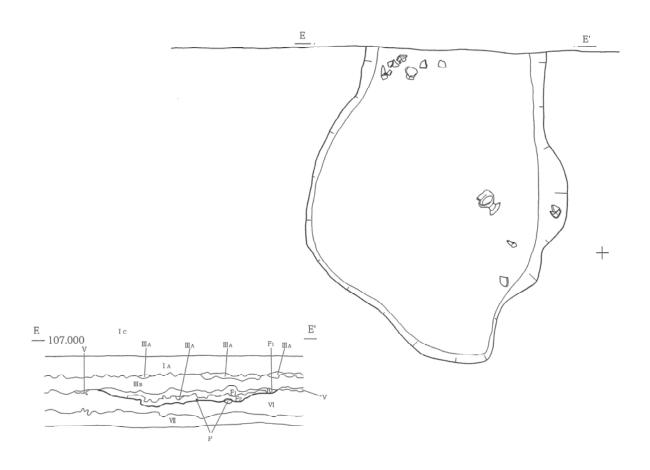
D区東部及びA区の南部で検出された一連の溝跡である。幅は $1.5\sim2.0\,\mathrm{m}$ で、検出面からの深さは $1.6\sim2.0\,\mathrm{m}$ を測る。覆土中からは土師器の細片や自然木が出土する。まとまった土器の出土はみられなかったが、古墳時代に属すると思われる。

D 区東部の調査区北壁及び東壁の断面観察から、SD 3 の右岸には堤防状の高まりが築かれ、その先に平坦面が形成されていると考えられた。その平坦面には層厚 7 ~ 1 0 cm 程度でブロック状の火山灰が水平に堆積している。北壁の断面観察から、SD 3 の右岸「落ち際」にも同じ火山灰のブロックが観察されている。このことから火山灰の堆積時期は SD 3 と同時期の可能性が考えられる。テフラ分析の結果では、「十和田 a 火山灰に同定される可能性は非常に低」く、「これまで山形市域ではほとんど知られていない特徴を持つテフラ粒子」であると報告されている。

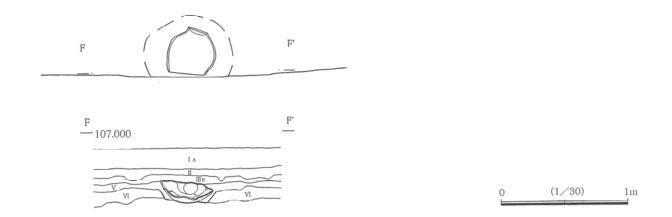
また D 区では、この火山灰層を含め、その上層及び下層でプラントオパール分析を実施している。 その結果、「火山灰層直上のⅢ B 層は稲作跡の可能性が高いが、火山灰層及びその下層は稲作跡の 可能性は低く、ヨシの繁茂する湿地であった」と報告されている。



第61図 SB14



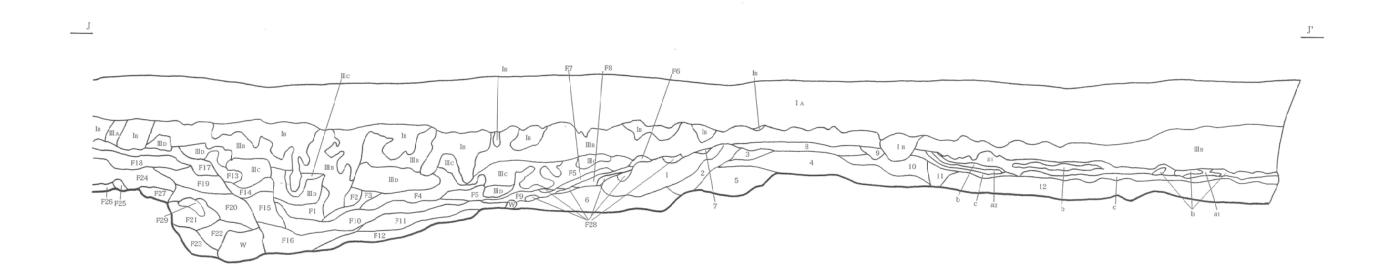
SK13土層2	Eac					
セクション記	号 遺構番号	層序	土色	土質	備考	_
_	01/10	F1	2.5Y2/1	シルト	火山灰のブロックを含む]
=	SK13	F2	2.5Y4/1	砂質土	炭化物の粒子、土器片などを含む]

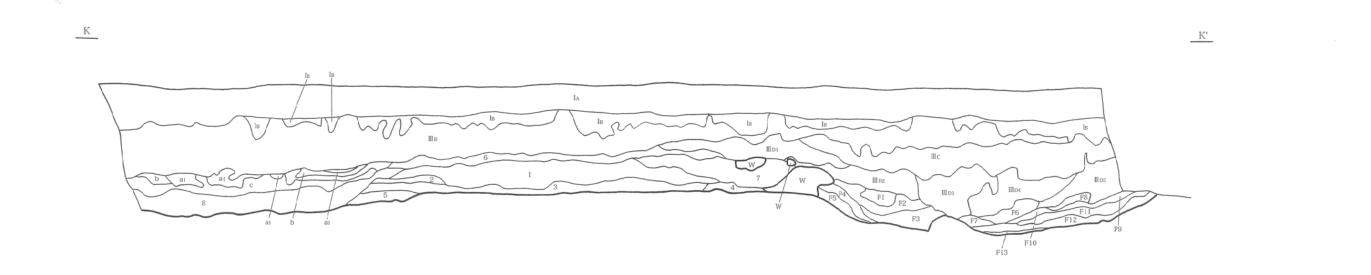


第62図 SK13・15

表 14 D区 車・北壁 +	FT ->

表 14 D区東	· 北壁土層2	記			
セクション記号			土色	土質	備考
	70011710	1	5Y 4/1	砂質土	粘性強
		2	5Y 4/1	砂質土	10Y4/1砂質土が混じる
		3	2.5Y 4/2	砂質土	1074/1砂質土が混じる
		4	10Y 4/1	砂質土	2.5Y4/1砂質シルトが混じる
		5	2.5Y 4/1	砂貝工	2.314/ 119 貝 フルドか 飛じる
		_			I 土口改
		6	7.5Y 3/1	砂質土	しまり強
		7	2.5Y 4/2	砂質シルト	
		8	2.5Y 4/2	砂質土	
		9	2.5Y 4/2	砂質土	2.5Y7/1粘土が混じる
		10	2.5Y 2/1	シルト	均質
		11	2.5Y2/1	砂質シルト	
		12	2.5Y 4/1	シルト	均質
		F1	5Y 3/1	シルト	均質な泥炭、粘性がない
		F2	5Y 3/1	シルト	均質な泥炭、粘性がない
		F3	5Y 3/1	シルト	2.5Y2/1シルトが混じる
		F4	5Y 3/1	シルト	泥炭
		_			
		F5	5Y 3/2		泥炭、粘性強
		F6	5Y 3/2	砂質土	2.5Y4/2砂質土が混じる
		F7	5Y 3/2		2.5Y7/1粘土が混じる
		F8	5Y 4/1	砂質土	均質、しまり強
		F9	5Y 4/1	シルト	粘性強
		F10	2.5Y 4/1	シルト	均質な泥炭、粘性強
J		F11	2.5Y 4/1	シルト	泥炭、粘性強
		F12	5B 4/1	粘土	しまり強、2.5Y7/1粘土が層状に混じる
		F13	2.5Y 4/1	砂質シルト	573/1シルトが混じる
		F14			
	000		5Y 4/1	シルト	5Y3/1シルトのブロックが少々混じる
	SD3	F15	5Y 4/2	シルト	5Y3/1シルトのブロックが少々混じる、植物質を含む
		F16	2.5Y 3/2	シルト	均質な泥炭
		F17	2.5Y 4/1	砂質粘土	均質
		F18	5Y 4/1	砂質粘土	均質
		F19	5Y 4/1	粘土	粘性強
		F20	5Y 3/2	砂質シルト	均質
		F21	5Y 3/2		2.5Y7/1粘土のブロック(φ5~10mm)が混じる
		F22	5Y 3/2		植物質が混じる
		F23	5Y 3/2		2.5Y7/1粘土のブロック、植物質が混じる
		_			
		F24	2.5Y4/1	砂質シルト	
		F25	7.5Y 5/2	砂	粘性強
		F26	5Y4/1	砂質土	炭化物(φ5mm)を含む
		F27	2.5Y4/1	砂質シルト	
		F28	2.5Y7/1	粘土	均質、粘性強
		F29	2.5Y7/1	粘土	5B4/1粘土のブロックを含む、粘性強
		a1	2.5Y 5/2	砂質土	均質、粘性がない
		a2	2.5Y 5/2	砂質土	2.5Y7/1粘土が混じる
		Ь	2.5Y7/1	粘土	5B4/1粘土のブロックを含む、粘性強
		С	2.5Y7/1	粘土	584/1粘土のブロックを含む、粘性強
		IID1	2.5Y2/1	シルト	カクランにより6・7層の土が混じる
		IID2	2.5Y2/1	シルト	カクランによりF1・F2層の土が混じる
		IID3	2.5Y2/1	シルト	カクランによりF3層の腐植土ブロックが少々混じる
		IID4	2.5Y2/1	シルト	カクランにより下F6・F7層の腐植土ブロックが多く混じる
		III D5	2.5Y2/1	シルト	カクランにより下F8・F9層の土が混じる
		1	2.5Y2/1	シルト	and the second s
		2	2.5Y5/1	シルト	均質
		3	5Y4/1		2.5Y7/1粘土が混じる、炭化物のブロックを含む
1	l	4	5Y4/1	砂質土	炭化物を含む
'					
		5	5Y4/1	砂質土	腐植土が混じる
		5 6	5Y4/1 7.5Y5/1	砂質土	均質
		6 7	7.5Y5/1 5Y4/1		均質 粘性強
		6 7 8	7.5Y5/1 5Y4/1 2.5Y2/1	砂質土 砂質土 砂質シルト	均質 粘性強 均質 *水田耕作土の可能性がある
		6 7 8 F1	7.5Y5/1 5Y4/1 2.5Y2/1 2.5Y4/1	砂質土 砂質土 砂質シルト シルト	均質 <u>粘性強</u> 均質 *水田耕作土の可能性がある 2.5Y2/1シルトが混じる
К		6 7 8 F1 F2	7.5Y5/1 5Y4/1 2.5Y2/1 2.5Y4/1 2.5Y4/1	砂質土 砂質土 砂質シルト シルト シルト	均質 粘性強 均質 * 水田耕作土の可能性がある 2.5Y2/1シルトが混じる 植物質を少々含む
К		6 7 8 F1 F2 F3	7.5Y5/1 5Y4/1 2.5Y2/1 2.5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y3/2	砂質土 砂質シルト シルト シルト シルト	均質 <u>粘性強</u> 均質 * 水田耕作土の可能性がある 2.5Y2/1シルトが混じる 植物質を少々含む 均質な泥炭、植物質を含む
К		6 7 8 F1 F2 F3 F4	7.5Y5/1 5Y4/1 2.5Y2/1 2.5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y3/2 2.5Y5/1	砂質土 砂質シルト シルト シルト シルト 砂質土	均質 粘性強 均質 * 水田耕作土の可能性がある 2.5Y2/1シルトが混じる 植物質を少々含む
К		6 7 8 F1 F2 F3 F4 F5	7.5Y5/1 5Y4/1 2.5Y2/1 2.5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y3/2 2.5Y5/1 7.5Y4/1	砂質土 砂質シルト シルト シルト シルト 砂質主 砂質主	均質
К		6 7 8 F1 F2 F3 F4 F5 F6	7.5Y5/1 5Y4/1 2.5Y2/1 2.5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y3/2 2.5Y5/1 7.5Y4/1 5Y4/2	砂質土 砂質シルト シルト シルト シルト 砂質 工 砂質 エ シルト	均質
К	SD3	6 7 8 F1 F2 F3 F4 F5 F6	7.5Y5/1 5Y4/1 2.5Y2/1 2.5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y3/2 2.5Y5/1 7.5Y4/1 5Y4/2 5Y3/1	砂質土 砂質シルト シルト シルト ・シルト ・シック ・シック ・シック ・シック ・シック ・シック ・シック ・シック	均質
К	SD3	6 7 8 F1 F2 F3 F4 F5 F6 F7	7.5Y5/1 5Y4/1 2.5Y2/1 2.5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y3/2 2.5Y5/1 7.5Y4/1 5Y4/2 5Y3/1 5Y4/2	砂質土 砂質シルト シルト シルト シルト シルト シルト 砂質質土 ・シルト 砂質質土	均質
К	SD3	6 7 8 F1 F2 F3 F4 F5 F6 F7 F8	7.5Y5/1 5Y4/1 2.5Y2/1 2.5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y3/2 2.5Y5/1 7.5Y4/1 5Y4/2 5Y3/1 5Y4/2 5Y5/1	砂質土 砂質シルト シルト シルト シリカリ 砂質ガート シルト 砂質質 カルト 砂砂質 カルト 砂砂質 カルト シカルト 砂砂質 カルト シカルト 砂砂質 カルト シカルト 砂砂質 カルト シカルト 砂砂質 カルト シカルト シカルト シカルト シカルト 砂砂質 カルト シカルト シカルト シカルト シカルト シカルト シカルト シカルト	均質 粘性強 均質 * 水田耕作土の可能性がある 2.5Y2/1シルトが混じる 植物質を少々含む 均質を泥炭、植物質を含む 2.5Y7/1粘土がブロック状に多く混じる 粘性強 植物質を含む、粘性強 均質 5Y1/1粘土がブロック状に混じる
К	SD3	6 7 8 F1 F2 F3 F4 F5 F6 F7 F8 F9	7.5Y5/1 5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y3/2 2.5Y5/1 7.5Y4/1 5Y4/2 5Y3/1 5Y5/1 5B3/1	砂質 砂質 砂質 シルト シルト シルト シルト シルル 砂質 シルル 砂質 カルト シルル 砂質 カルト シルル 砂質 カルト シルガ 砂が カルト シルガ 砂が カルガ カルガ カルガ カルガ カルガ カルガ カルガ カルガ	均質
К	SD3	6 7 8 F1 F2 F3 F4 F5 F6 F7 F8 F9 F10	7.5Y5/1 5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y3/2 2.5Y5/1 5Y4/2 5Y3/1 5Y4/2 5Y5/1 5B3/1 2.5Y3/2	砂質量土砂質質ルトシルトシルル質質シルクリ質ウェルト・シングウェルト・シングサンル・カングサンル・カングおりおりおりカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカントカント<	均質 粘性強 均質 * 水田耕作土の可能性がある 2.572/1シルトが混じる 植物質を少々含む 均質な泥炭、植物質を含む 均質な泥炭、植物質を含む 2.5Y7/1粘土がプロック状に多く混じる 粘性強 植物質を含む、粘性強 均質 5Y7/1粘土がプロック状に混じる 5Y4/2砂質土が混じる 植物質を少々含む
К	SD3	6 7 8 F1 F2 F3 F4 F5 F6 F7 F8 F9 F10 F11	7,5Y5/1 5Y4/1 2,5Y4/1 2,5Y4/1 2,5Y4/1 2,5Y3/2 2,5Y5/1 7,5Y4/1 5Y4/2 5Y3/1 5Y4/2 5Y5/1 5B3/1 2,5Y3/2 5B3/1	砂質賞土ルトシルルトシルルトンシルリ質質土ルトシルルトンシル質質土ルトシルリ質質土 シンル質質土 シンリ質質土 土砂費 土 粘査土	均質 粘性強 均質 * 水田耕作土の可能性がある 2.5Y2/1シルトが混じる 植物質を少々含む 均質な泥炭、植物質を含む と5Y7/1粘土がブロック状に多く混じる 粘性強 植物質を含む、粘性強 均質 5Y7/1粘土がブロック状に混じる 5Y4/2砂質土が混じる 植物質を含む しまり強、2.5Y7/1粘土のブロックが混じる
К	SD3	6 7 8 F1 F2 F3 F4 F5 F6 F7 F8 F9 F10 F11 F12 F13	7.5Y5/1 5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y3/2 2.5Y5/1 7.5Y4/1 5Y4/2 5Y3/1 5B3/1 2.5Y3/2 5B3/1 2.5Y3/2	砂質質土ルトシルトシルトシルトシルリュントリカルトシールトシールトシールリューシールリューシールリカーシールリカーシールリカールリカールリカールリカールトシールリカール・カール・カール・カール・カール・カール・カール・カール・カール・カール・	対質
К	SD3	6 7 8 F1 F2 F3 F4 F5 F6 F7 F8 F9 F10 F11 F12 F13 a1	7.5Y5/1 5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y3/2 2.5Y5/1 7.5Y4/2 5Y3/1 5Y4/2 5Y5/1 5B3/1 2.5Y3/2 5B3/1 2.5Y3/2 5B3/1 2.5Y3/2	砂質質シルトシルルは シシルルトシシ砂砂シールの質質エトリーシンの質質ルトリーンの質質エトリーンの質質エトリーンの質質生生のである。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	均質
К	SD3	6 7 8 F1 F2 F3 F4 F5 F6 F7 F8 F9 F10 F11 F12 F13	7.5Y5/1 5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y4/1 2.5Y3/2 2.5Y5/1 7.5Y4/1 5Y4/2 5Y3/1 5B3/1 2.5Y3/2 5B3/1 2.5Y3/2	砂質質土ルトシルトシルトシルトシルリュントリカルトシールトシールトシールリューシールリューシールリカーシールリカーシールリカールリカールリカールリカールトシールリカール・カール・カール・カール・カール・カール・カール・カール・カール・カール・	対質





0 1: *水糸レベルは、全て 106.800m 第 63 図 D 区東 ・ 北壁セクション

4 奈良・平安時代の遺構

(1) 溝跡

SD 8 (図版43)

C区から A 区にかけて南北に延びる溝跡で、途中 SG 1 1 と切り合う。幅は $0.7 \sim 1.5 \,\mathrm{m}$ 、検出面からの深さは $21 \sim 25 \,\mathrm{cm}$ を測り、約 $27 \,\mathrm{m}$ を検出した。断面は傾斜のゆるい「U」字形で、底面からは、底部に墨書のある完形の須恵器坏(1)が 1 点出土した。

SD 9 (第64図・図版43)

E区の西、SB 1 4 と SG 1 1 の間に位置する溝跡で、ほぼ南北に直線的に延びる。幅 5 6 ~ 8 4 cm、検出面からの深さは 2 2 ~ 3 0 cm を測り、約 1 0 mを検出した。断面はゆるい「V」字形で、 覆土中からは土師器や赤焼き土器の細片が出土した。

(2) 土坑

SK 12 (第65図・図版42)

E区の中央、SB 1 4 の東側に位置する、不整楕円形を呈する土坑である。長軸が 9 9 cm、幅は $51\sim74$ cm、検出面からの深さは $10\sim12$ cm を測る。 V 層を掘り込んでおり、覆土中には焼土ブロックや炭化物、焼けた部材(4 2)、赤焼土器の破片などが含まれる。

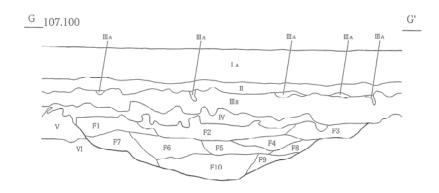
5 出土遺物(第66~70図・図版46~48)

遺物は、SK 1 3、SG 1 1、E 区包含層を中心に、遺物整理箱にして約 7 箱出土した。概して平 安時代の遺物は少なく、9 割以上を古墳時代の遺物が占めており、坏・高坏・甕・壺・甑・ミニチュア土器などの器種が確認されている。

坏は、有段丸底のもの(a 類)、椀型のもの(b 類)、口縁部が屈曲して直立するもの(c 類)に大きく分けられる。また a 類はさらに、段が緩やかでやや不明瞭なもの(i)、外面に鋭く明瞭な段を有するもの(ii)、段が体部下半に位置し平底に近いもの(iii)、外面に段が認められず、内面の段のみが明瞭なもの(iv)に区別できる。また高坏はいずれも有段であるが、坏体部が内湾して立ち上がり、段がやや明瞭なもの(a 類)、坏底部が比較的平らで、段がやや不明瞭なもの(b 類)、坏体部が直線的に開き、段が明瞭なもの(c 類)に大きく分けられる。脚部は短く寸胴で、脚裾部の先端が上方に反り上がるものが多く、概ね共通する特徴として捉えることができる。なお坏及び高坏のうち、半数近くが内面黒色処理される。

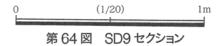
SK 13

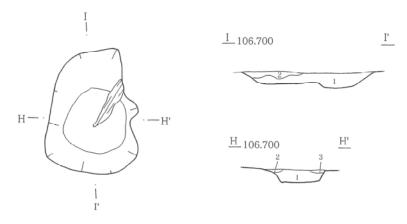
2は高坏 a 類で、内面が黒色処理される。段が明瞭で、口縁部は強くくびれて外反する。脚裾部の中ほどにやや膨らみをもつ。3は高坏 b 類に分類した。内面は中央から外に向かって放射状のミガキが施され、黒色処理される。9は内面が黒色処理されており、平らな底部が作り出されるやや特異な坏である。17は坏 a ii 類で須恵器蓋坏の模倣である。胎土が赤褐色で内面底部に中央から外に向かって放射状のミガキが観察される。関東の鬼高Ⅱ式の坏と思われる。19は甕



SD9+層注記

SD9工層注記	;				
セクション記号	遺構番号	層序	土色	土質	備考
		F1	10YR 4/2	砂質土	均質
		F2	10YR 4/2	砂質シルト	均質、粘性強
		F3	10YR 4/1	砂質土	
		F4	10YR 3/1	砂質土	粘性強
G	SD9	F5	5Y 4/1	砂質シルト	
"	309	F6	5Y 4/1	シルト	
		F7	5Y 4/1	シルト	粘性弱、しまり強
	F8 2.5Y 4/1 シルト:				均質
		F9	2.5Y 4/1	砂質シルト	均質
		F10	5Y 4/1	シルト	炭化物が混じる





SK12土層注記

	10				
セクション記号	遺構番号	層序	土色	土質	備考
		1	N 2/0	シルト	しまり弱、2.5Y8/2シルトのブロック(φ5~10mm)が少々混じる
H/I	SK12	2	10YR 3/2	シルト	粘性強、しまり強、10YR2/1シルトのブロック(φ10~20mm)が少々混じる
		3	10YR 3/2	シルト	均質、植物質を含む



で、内面はヘラナデ、外面は体部が丁寧なミガキが施され、底部はケズリで丸底風に仕上げられる。 口縁部はヨコナデされる。21は坏b類で、口唇部がやや外反する。体部外面は縦方向にミガキ が施され、口縁部はヨコナデされる。22は壺と思われるが頸部から上を欠く。体部は扁平な球 胴形で、広い底部が付く。23は坏c類で、口縁部が屈曲してほぼ垂直に立ち上がる。24は高 坏b類に分類したものである。短いが直線的な脚部を有し、脚裾部には2ほど顕著ではないが中 ほどに微妙な膨らみがある。内面は中央から外に向かって放射状のミガキが施される。26は甕 であるが、体部上半を欠く。胎土に礫が多く混じるが焼成は良好である。33は坏ai類に分類 したが、口縁部が強くくびれて外反する。内外面とも丁寧なミガキが施される。36は甑で、体 部は球胴形に近い形状を呈する。

E区包含層

4・7は坏ai類に分類した。どちらも内面が黒色処理される。31も坏ai類に分類したが、内外面とも丁寧なミガキが施されるが、内面は黒色処理されない。34はaⅳ類としたもので、内面にのみやや明瞭な稜を有する。16・20は坏b類とした。16は体部に明瞭な輪積み痕を残し、口唇部はほぼ直立する。20も体部には明瞭な輪積み痕を残し、平底の底部外面には葉脈痕が観察される。5は高坏b類に分類した。内面は中央から外に向かって放射状のミガキが施され、黒色処理される。脚裾部の中ほどがやや膨らむ。18は高坏c類であるが、坏底部及び脚部を欠く。内外面とも細かなミガキが施される。外面に明瞭な段を有し、口唇部は玉縁状になる。27・28・30は甕であるが、いずれも休部下半を欠く。30は体部が球胴形になり、外反する口縁部の外面はヨコナデされる。14・15は手捏ねのミニチュア土器である。35は小型の壺である。断面は算盤玉形を呈し、内面はナデ、外面は丁寧なミガキが施される。口縁部付近に焼成前の穿孔が1ヶ所確認された。底部外面はやや磨滅が見られる。

SG 1 1

6は坏aiii類で、内面が黒色処理される。8は坏aii類で須恵器蓋坏の模倣である。内面が黒色処理される。25は甕であるが体部下半を欠く。29は、体部から口縁部にかけて直立する器形で、輪積み痕を明瞭に残すが、器種は不明である。

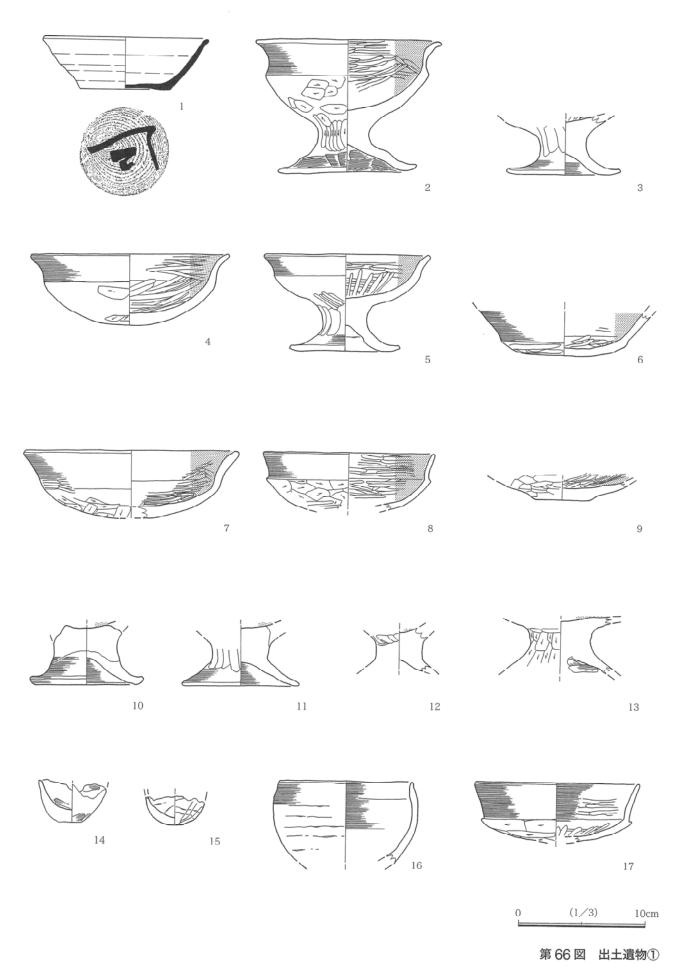
SK 15

37は大型の壺で、体部は球胴形を呈する。内外面とも激しいミガキが施されるが、所々に輪積みの痕跡が観察される。頸部から口縁部が直立し、口唇部が強く外反する。口縁部は内外面ともヨコナデされる。底部外面はナデで、外周には磨滅痕が観察される。なお、胎土中から炭化米が2点検出された。

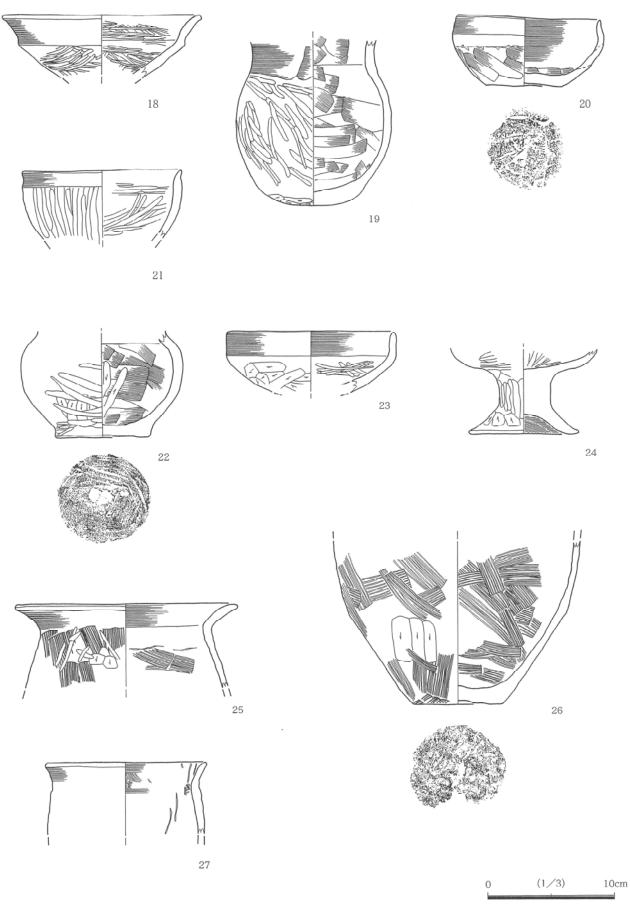
SD 8

平安時代の遺物で図化できたのは、SD 8から出土した須恵器の坏1点のみである。

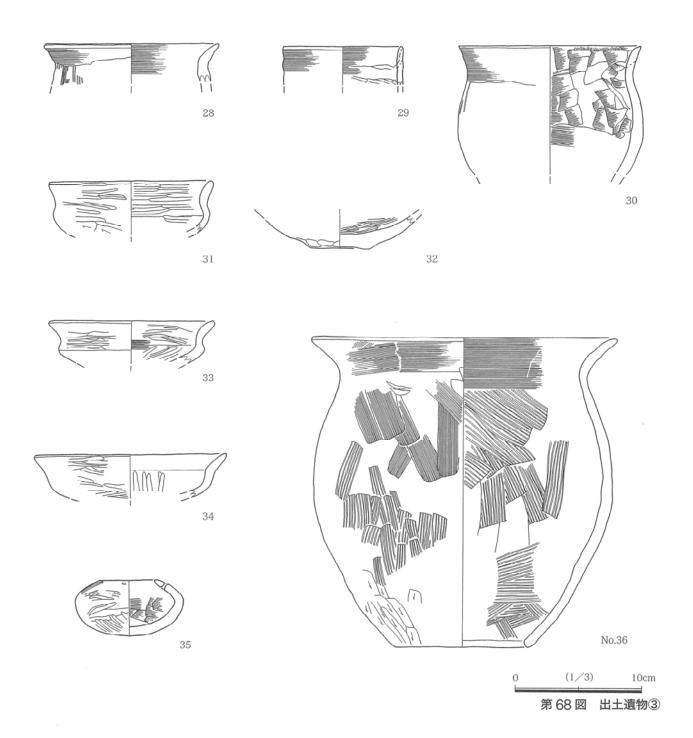
1は、ほぼ完形の須恵器坏で、底径がやや大きく、体部は直線的に開く。底部切り離しは回転 糸切りで、底部外面に墨書が認められるが文字は不明である。年代的には9世紀中葉頃と考えら れる。

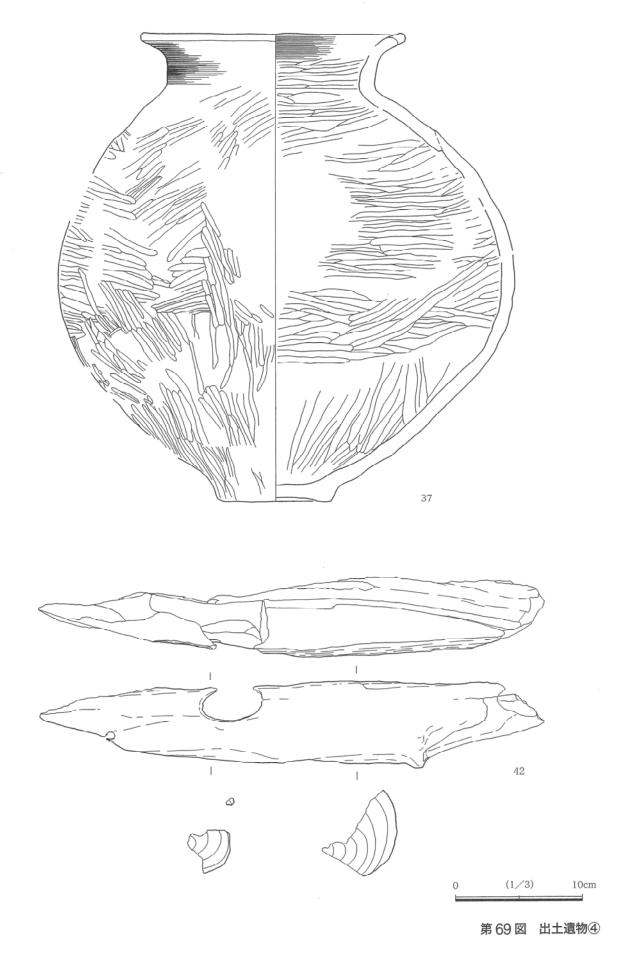


- 94 -

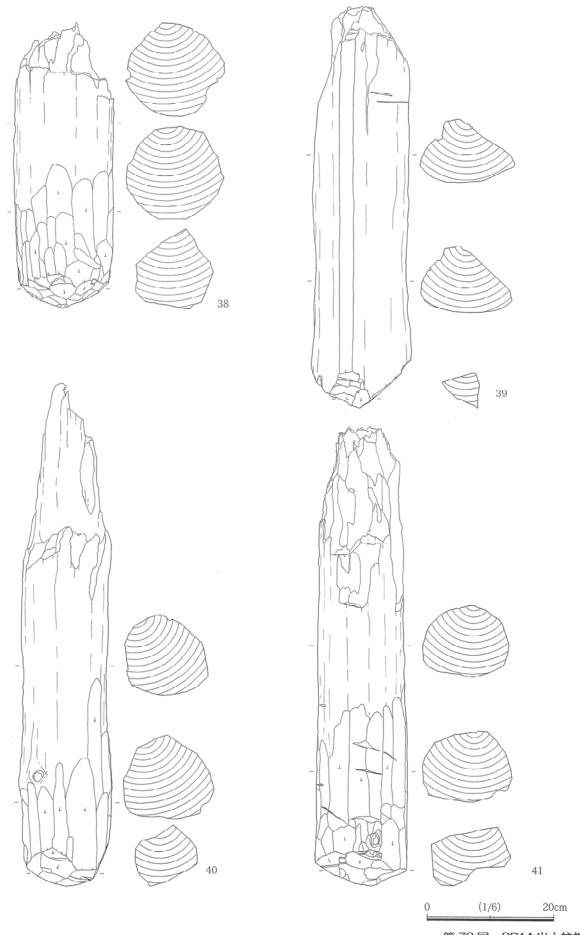


第67図 出土遺物②





− 97 **−**



第70図 SB14 出土柱根

		后上に味が洗しる。		Market State	温じる。	口縁内面および底部の外面外割が摩滅		近が磨滅	200	ツ々混じる。											And the second of the second o	胎士に繰か少々泥しる。		体部外面に入入が付着する。		- 1	胎工に傑か多く斑しる。 馬部外国: イナ		輪積み場 およに ボルン多く につ。	2 D 2 - 1 Apr - 1 - 12	外面にススか付着する。		°°			- 1	多く混じる。 外面にススか付着する。						
	党批学 H 医手术 4 全国 医骨术 19 十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	展部外面に塗書(又字は不明)、馬部外周およい内外国が審談		理 脚部の内面外周が磨減	内面:ミガキ→黒色処理	内面:ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理 底部が	内面:ミガキ→黒色処理 原	内面:ミガキ→黒色処理 胎	Ė	記 の に	黒色処理 底部の外面外冑が磨滅	内面: 黑色処理	→黒色処理			(付置する。 輪積み狼	→ミガキ 内面:ナデ→ミガキ 胎工:赤褐色	+	K.	面:ナデ内部	内面:ミガキ	:ナデ→ミガキ 底部外面:ナテ	内面:口縁ナテ、体部ミカキ→黒色処理	:ガキ 胎土に礫が混じる。	アメ、輻積み痕	内外面にススや灰化物が付着する。	るく湿じる。	内面ナデー内面に多量の炭化物が付着する。	起じる。焼成は良い。	内面:ハケメ 胎土に磔が多く混じる。	1	キ 底部外割が磨滅 外面の一部にススか付着する。	口縁外面の一部にススが付着する。	- 1	類料が付着する。 底部が磨滅	、ハケメ 内面:口縁ナデ、体部ハケメ 胎土に礫が多く混じる。	+	1/4割材、下部をケズリ整形する。	1/4割材、下部をケズリ整形する。	1/4割材、下部をケズリ整形する。	1/4割材、下部をケズリ整形する。	
ab 40 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 /	- 1	底部回転糸切り、底部外面に	ᆘ	外面:ケズリ 内面:ミガキ→黒色処理	外面:口縁ナデ、体部ケズリ→ミガキ	小面: 口縁ナデ、体部ケズリ-	外面:口縁ナデ、底部:ケズリ 内面:ミガキ→黒色処理	外面 口縁ナデ、底部ケズリ→ミガキ	7	→ #¼#	ĭΗ		1	外面:ケズリ 内面:ミガキ→黒色処理	33.5 内外面: 指頭圧痕		114.0 外面:口線ミガキ 内面:ナ	外面:口縁ナデ、底部ケズリ→ミガキ	外面:口縁ナデ、体部ミガキ	7	120.0 外面:ナデ、底部葉脈痕 P	iii	ガキ	距		外面:ナデ、ハケメ 内面:-	5	内外面:ナデ 胎土に礫が多く混じる。	ìĥ		(147.0) 外面: 口縁ナデ、体部ハケメ	+-	世		ıL	(85.0) 外面:≒ガキ 内面:ナデ、-	外面:口縁ナデ、体部ケズリ、ハケメ	.5 内外面:口%		径:151.0 樹種:栗 1/4割材、下部を		5 樹種:栗	径:67.0 木ゾ穴か
	器 部 (mm)		0.901 0		56.5	5 76.5	0.	54.0		0.	0.				.5 18.0	.5				.5	.0 55.0		0.		.5		0.0						0.			(44.0)	0) (246.5)	89.0 370.0					
-	底径(131.0 71.5	142.5 102.0		153.5	131.5 82.5	'	(167.0)	(135.5)	46.0	90.0				53	12.5	104.0	(128.0)	(154.0)	66.5	112.0 60.0	(124.5)	76.0	(130.0)	86.5	(173.0)	70.0	(126.0)	(137.0)	(92.5)	(143.0)	(126.5)	47.0	(127.5)	(149.0)	(40.0)	(237.0) (116.0)	210.0 89	長:450.0	37.0	02.0	30.0	0.86
ŀ	自体		高坏	高坏	华	高坏	本		本	本	高坏	高坏	高坏	高坏	本	本	本		画坏 (1		大		鲱		高坏		薬か)		删		壷か		坏	串		쏌	柱根 長:4	柱根 長:6	柱根 長:8	柱根 長:730.0	部材か 長:3
物観察表	種別	須恵器	内黒土師器	内黒土師器	内黒土師器	内黒土師器	内黑土師器	内黑土師器	内黑土師器	内黒土師器	内黒土師器	内黒土師器	内黒土師器	内黒土師器	手捏ね土器	手捏ね土器	上節器	上師器	十節器	上師器	上師器	上師器	上師器	上師器	上師器	上師器	上師器	上師器	上師器	上師器	上師器	上師器	上師器	土師器	土師器	土師器	土師器	土師器	木製品	木製品	木製品	木製品	木製品
15 梅野木前2遺跡出土遺物観察表	層位		面上口	1		10金屬 10		DH III			包含層	包含層。	包含層	包含層「	包含層	包含層	包含層	獨十	BEE		RAII	山垣	た					包含層	包含層	腳十十	包含層	包含層	包含層	山垣	包合層	包含層	腦	坦	-				
;梅野木前2	遺構	SD8	SK13	SK133	M	K	SG11	N	SG11	SK13	E M	E	区区	S N	E	日	区	SK13	E	SK13	N	SK13	-	L	SK13		SK13	L		0,	日図		N	SK13	L	図	ļ.,	L	S	SB14	SB14	SB14	SK12
更 5	No.	-	2	m	4	rc.	9	~	00	6	유	Ξ	12	13	14	15	16	17	8	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	9	41	42

6 まとめ

調査の結果、古墳時代の遺構は打込み柱建物跡1棟・土坑2基・溝跡1条・川跡1条、平安時代の遺構は土坑1基・溝跡2条を検出した。遺物は土器を中心に、遺物整理箱にして約7箱出土したが、その9割以上は古墳時代の土師器が占める。ここでは今回出土した古墳時代の土師器の坏及び高坏を中心に、周辺遺跡の調査成果を踏まえて、その編年的な位置づけを試みる。

昭和58~59年に山形市に隣接する中山町の三軒屋物見台遺跡が山形県教育委員会によって発掘調査が行われたが、その出土遺物は当地域の基準的な資料となっている。調査の結果、古墳時代後期を主体とする20棟を越える竪穴住居跡が検出された。これらの竪穴住居跡は、遺構の切り合い等からI~VI期に時期区分され、同時に出土した多量の土師器坏を基に、I期:塩釜式、II期:南小泉II式、III・IV期:未命名の型式、V・VI期:住社式に時期区分され、さらに各期は器形により複数の土器群に分類されている。

本遺跡の坏・高坏の器形分類と照らし合わせると、坏ai類は三軒屋物見台遺跡のIV期 D 群、坏aiv類は同じくIV期 C 群に類似すると思われる。同様に坏 b 類はIV期 B 群、坏 c 類はIV期 E、坏a ii 類は V 期 A 群、坏a ii 類は VI 期 B 群にそれぞれ類似すると思われる。なお、17 は関東の鬼高 II 式の坏で、6 世紀の後半に位置づけられる。また $19 \cdot 20$ は壺であるが、これらも在地の土器にはあまり見られないものと思われる。

高坏では、高坏 b 類が山形市大字黒沢天神山遺跡出土の一群と類似する。天神山遺跡出土の土師器群については、川崎利夫氏が古墳時代第Ⅲ期「天神山式」(6世紀)として形式設定したことがあり、引田式に並行する時期に位置づけられている。本遺跡で坏 a ii 類とした 4・7がこれに含まれると思われ、6世紀でも住社式よりもやや先行する。10・11は高坏脚部で坏部を欠くが、天神山出土のものに類似する。高坏 a 類とした 2、同じく c 類とした 18は、体部の段が明瞭になり高坏 b 類より下った時期に位置づけられる。

以上をまとめると、本遺跡の主体は、三軒屋物見台遺跡で分類されたところのIV期、川崎氏の編年に照らせば天神山式にあって、年代的には6世紀前半でこれが上限となると思われる。下限は鬼高II式の影響が及ぶ6世紀後半と考えられる。本遺跡が古墳時代の集落跡として継続した時期は、概ね6世紀代に収まり、嶋遺跡にやや先行する集落であったと考えられる。

(引用・参考文)

会津若松市教育委員会 1995 『川原町口遺跡』会津若松市文化財調査報告書第36号

阿部明彦・水戸弘美 1999 「山形県の古代土器編年」『第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料』

尼崎市教育委員会 1982「田能遺跡発掘調査報告書」尼崎市文化財調査報告書第15集

石川七郎 1962「弥生式遺物を出した山形市七浦遺跡」『東北考古学』第3集

伊藤玄三 1958「仙台市西台畑出土の弥生式土器」『考古学雑誌』第44巻第1号

伊藤玄三 1961「東北日本における弥生時代の墓制」『文化』第25巻第3号

伊藤玄三 1993「仙台市西台畑弥生時代墳墓の再検討」『法政考古学』第20集

伊東信雄 1955「東北-各地域の弥生式土器」『日本考古学講座』第4巻

加藤 稔 1974「最上川流域の弥生式土器(I)」『研究紀要』山形県立山形中央高等学校

加藤 稔 1978「山形の弥生式土器」『北奥古代文化』第10号

加藤 稔・佐藤嘉弘・二瓶由佳 1986「最上川流域の弥生土器集成・資料編(Ⅱ)村山編」『山形考古』第4巻第1号

加藤 稔・佐藤嘉弘・二瓶由佳 1986「最上川流域の弥生土器集成・資料編 (II) 村山編・遺物解説」『山形考古』第4巻第2号

川崎利夫 1979 「山形県における土師器編年試論」 『庄内考古学』 第16号

佐藤信行 1966「山形県江俣の弥生式遺跡」『古代』第48号

須藤 隆 1990「東北地方における弥生文化」『考古学古代史論攷』伊東信雄先生追悼論文集刊行会

須藤 隆 2000「弥生時代の東北地方」『宮城考古学』第2号

仙台市教育委員会 1996「中在家南遺跡他」仙台市文化財調査報告書第213集

仙台市教育委員会 2000「高田 B 遺跡」仙台市文化財調査報告書第242集

玉口時雄・小金井靖 1984 「土師器・須恵器の知識」『考古学の基礎知識』考古学シリーズ17

中村五郎 1976「東北地方南部の弥生土器編年」『東北考古学の諸問題』

名取市教育委員会 1980「十三塚遺跡-弥生時代の土壙墓群発掘調査報告書」名取市文化財調査報告書第8集

福島県教育委員会 1988「一ノ堰A·B遺跡」『国営会津農水水利事業関連遺跡調査報告VI』福島県文化財調査報告書第191集

福永伸哉 1985「弥生時代の木棺墓と社会」『考古学研究』第32巻第1号

福永伸哉 1987「木棺墓」『弥生文化の研究 8祭と墓と装い』

福永仲哉 1991「木棺墓と人の交流」『原始・古代日本の墓制』山岸良二編

| 馬目順一 | 1982 『楢葉天神原遺蹟の研究』

馬目順一 1983「東北南部」『弥生土器Ⅱ』ニューサイエンス社

馬目順一 1987「幼児用の壺・甕棺墓」『弥生文化の研究 8祭と墓と装い』

森 幸彦 1992『竹島コレクション考古図録第3集 桜井 竹島國基編』第4章

山形県教育委員会 1979「山形西高敷地内遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財発掘調査報告書第17集

山形県教育委員会 1987 『三軒屋物見台遺跡発掘調査報告書(2)』山形県埋蔵文化財調査報告書第107集

山形県教育委員会·日本道路公団仙台建設局 1984「境田C'·D遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第76集

山形県埋蔵文化財センター 1994 『今塚遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第7集

山形県埋蔵文化財センター 2003 『向河原遺跡現地説明会資料』

『山形市史 上巻』

『山形市史 別巻1 嶋遺跡』

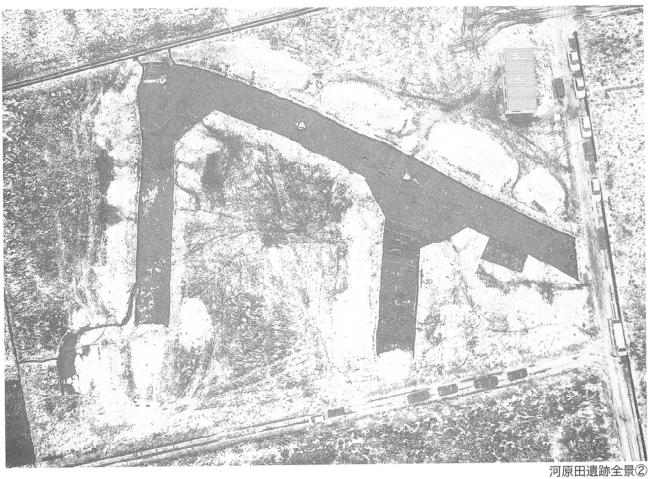
報告書抄録

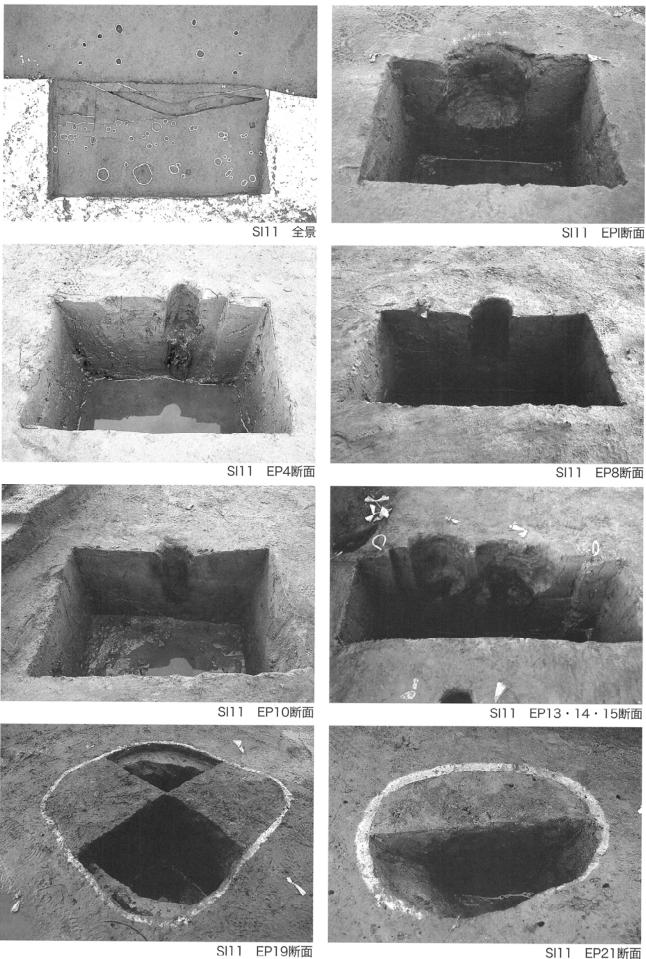
ふりがな	かわらだいせ	き・うめの	きまえにい	せきはっくつ	ちょうさほう	うこくしょ		
書名	河原田遺跡・村	海野木前2	遺跡発掘調:	查報告書				
副書名	1							
巻次								
シリーズ名	山形県山形市場	埋蔵文化財調	調査報告書					
シリーズ番号	第22集							
編著者名	武田和宏							
編集機関	山形市教育委員	員会						
所在地	〒990-8	540 山洌	形県山形市	旅篭町二丁目	3番25号	Tel 0 2 3 — 6 4 1	-1212	
発行年月日	2004年3月31	. 日						
ふりがな	ふりがな	コー	ード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				m²	
かわらだいせき河原田遺跡	やまがたけん山形県	6201	平成4年	38度	140度	19991026	1, 400	
17771 1178277	やまがたし山形市		度登録	17分	19分	~		
	かわらだ河原田			7秒	28秒	19991217		
	IN JACK					20000306		
					,	~		
						20000407		山形市嶋土地
うめのきまえにいせき 梅野木前2遺跡	やまがたけん 山形県	6201	平成5年	38度	140度	20011003	1,000	区画整理事業
17771177	やまがたし		度登録	16分	19分	~		
	うめのきまえ梅野木前			38秒	17秒	20011204		,
	1427/10							
Note to Lea	44.0.1	N N = 1-11						
遺跡名 河原田遺跡	種別 集落跡	主な時代 弥生時代		主な遺構 墓跡	6基	主な遺物 弥生土器	特記事項	
門原四息奶	未合吻	W. T. 1417		住居跡		勾玉		
				,	3棟			
				川跡	1条	柱根		1 0 1/1/2
		奈良・平安	時代	土坑 溝跡	1基 6条	須恵器		10箱
				1117-24	- 714	赤焼土器	×	
						土師器		
						内黒土師器		20箱
						1 11/1/17 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19	総出土箱数:	
梅野木前2遺跡	集落跡	古墳時代		打込み柱建物	か跡 1棟	土師器		
				土坑	2基	内黒土師器		
				川跡	1条	柱根		
				溝跡	1条]	
		奈良・平安	時代	土坑	1基	須恵器		
				溝跡	2条	赤焼土器		
							⟨⟨⟩	m tota
	L	L		L		L	総出土箱数:	7 箱

写 真 図 版

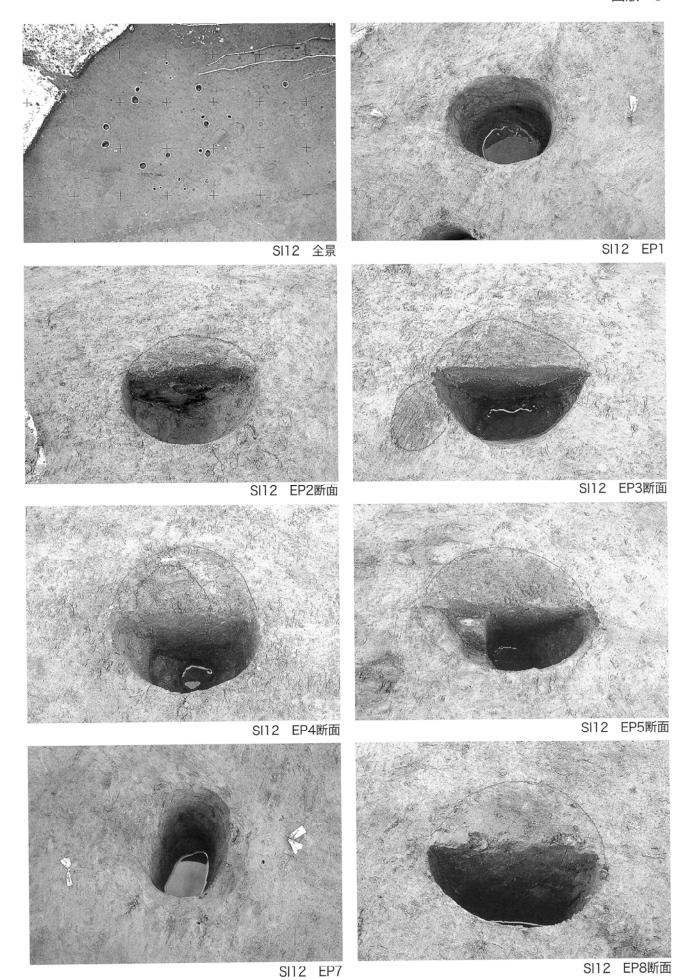


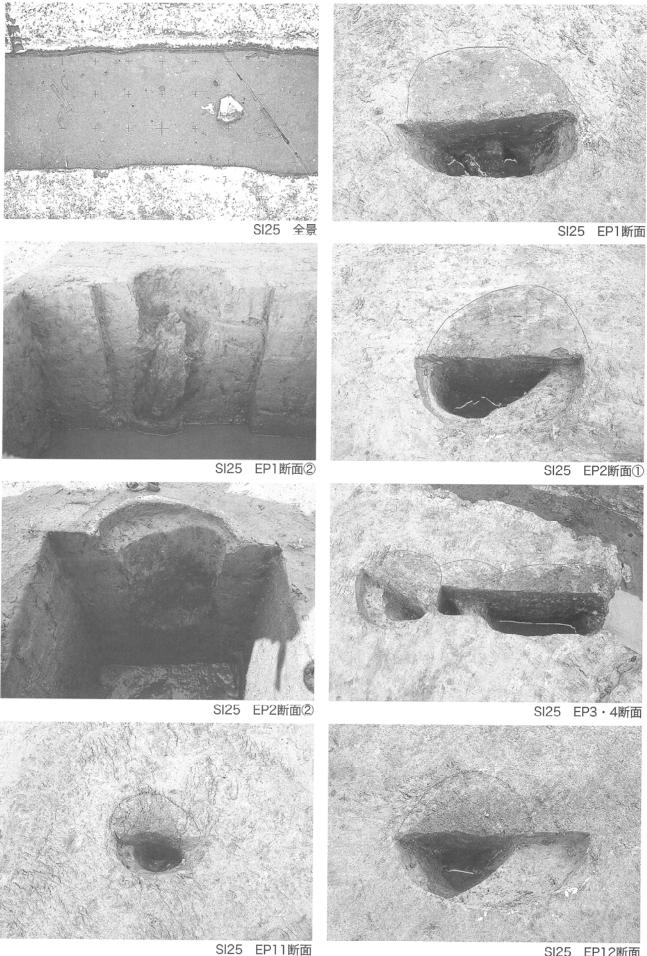
河原田遺跡全景①(北から)





SI11 EP21断面





SI25 EP12断面



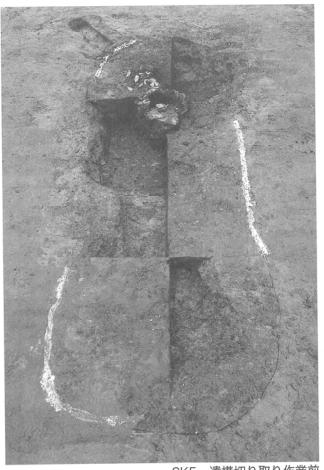
墓坑群



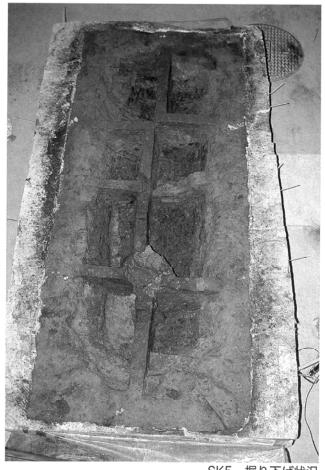
SK5 検出状況



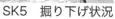
SK5 室内作業風景



SK5 遺構切り取り作業前



SK5 勾玉出土状況

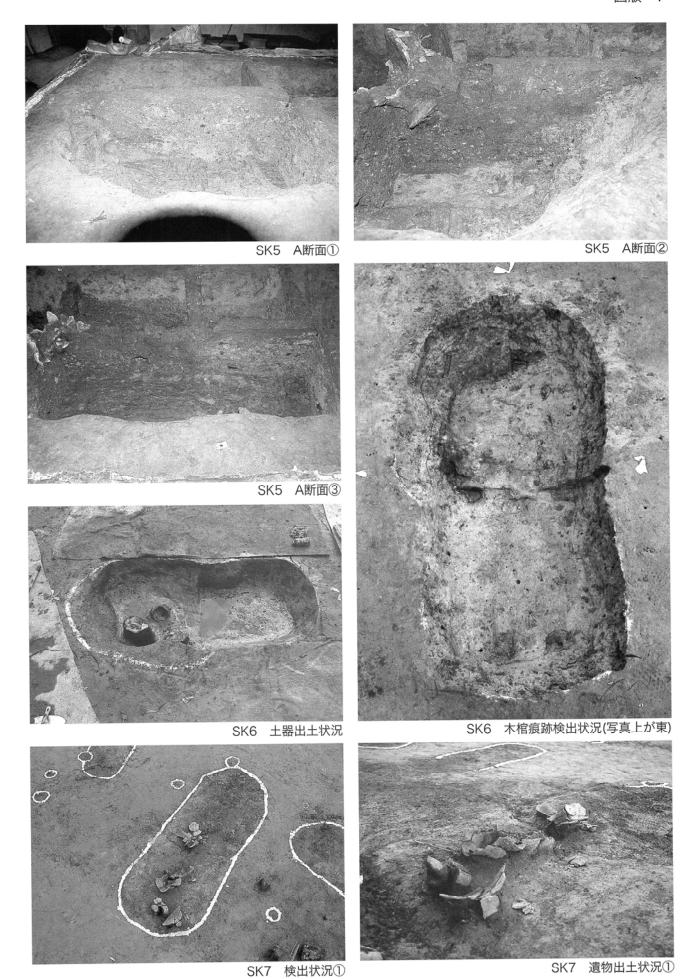


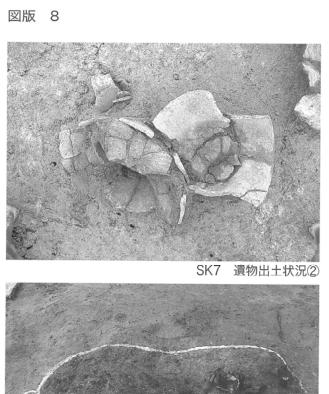


SK5 完掘①(西から)



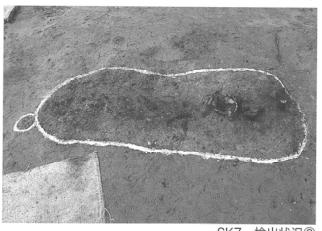
SK5 完掘②(東から)







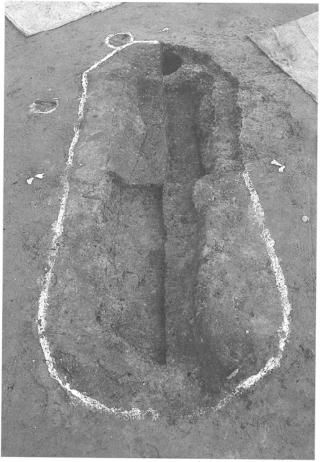
SK7 遺物出土状況③



SK7 検出状況②



SK7 一部掘り下げ①



SK7 一部掘り下げ②(西から)



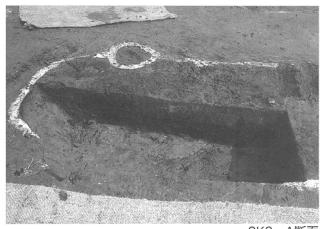
SK7 崩落直後



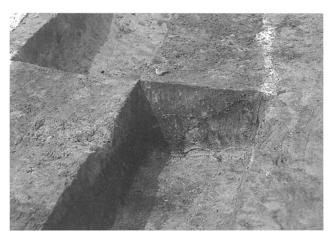
SK7 横断面 セクション



SK7 縦断面及び石検出状況



SK8 A断面



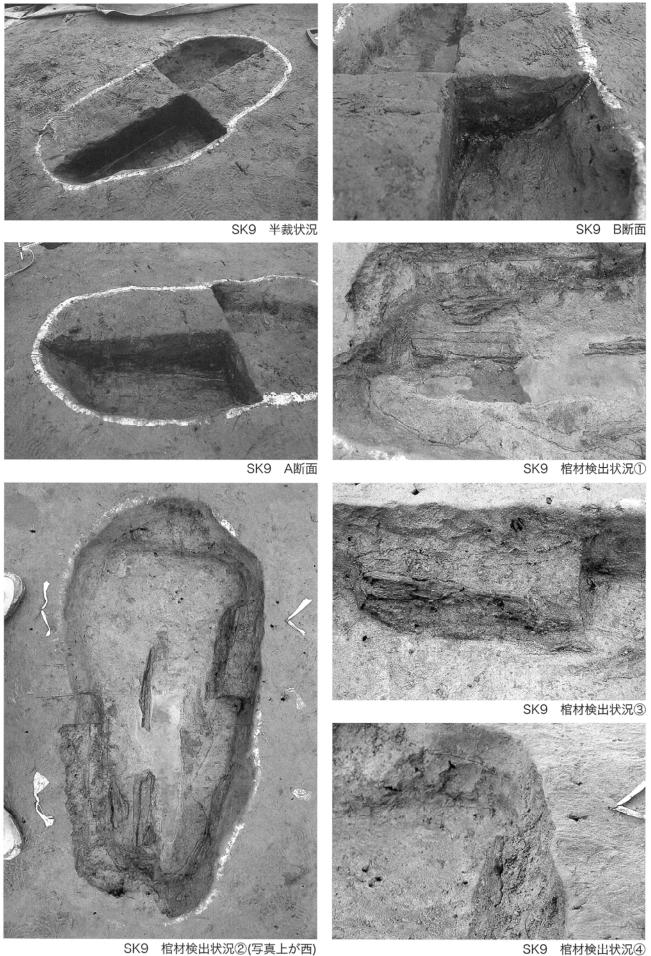
SK8 B断面



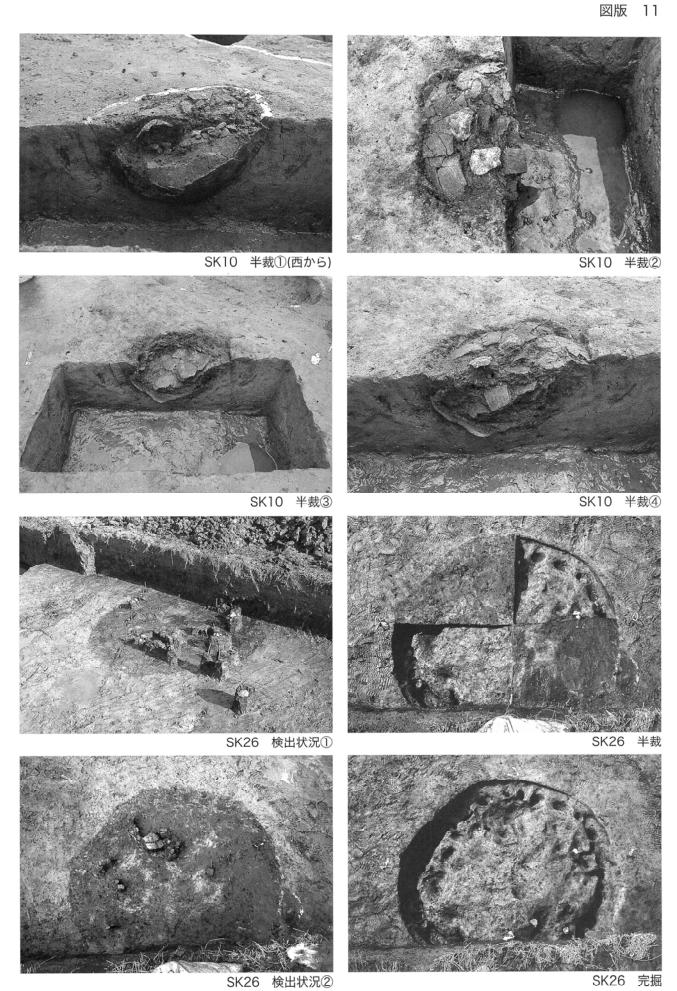
SK8 木棺痕跡検出状況①(写真上が西)

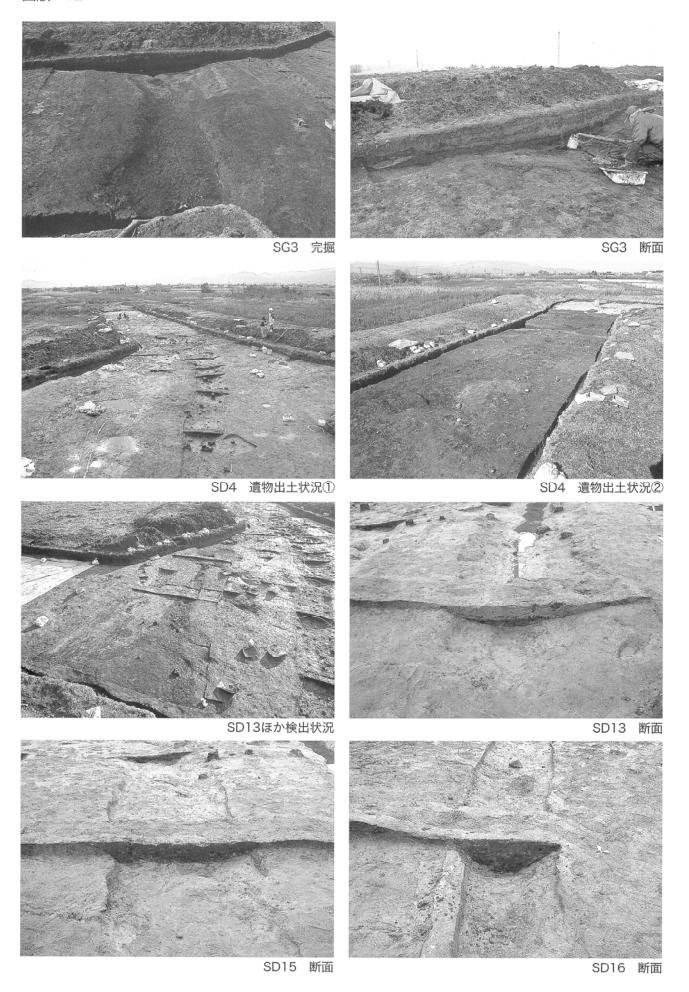


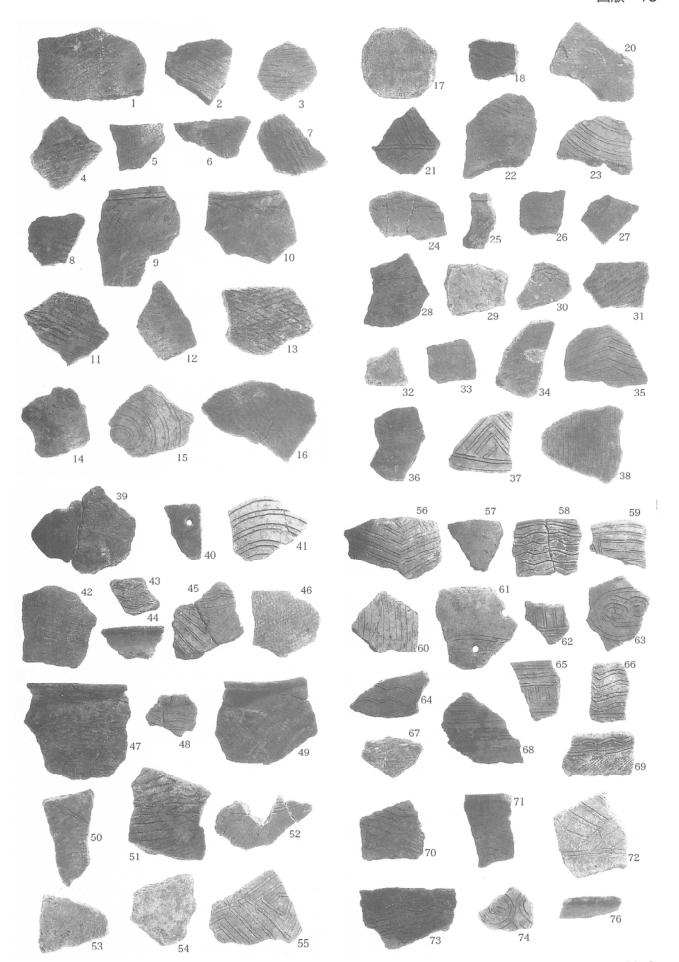
SK8 木棺痕跡検出状況②(写真上が東)



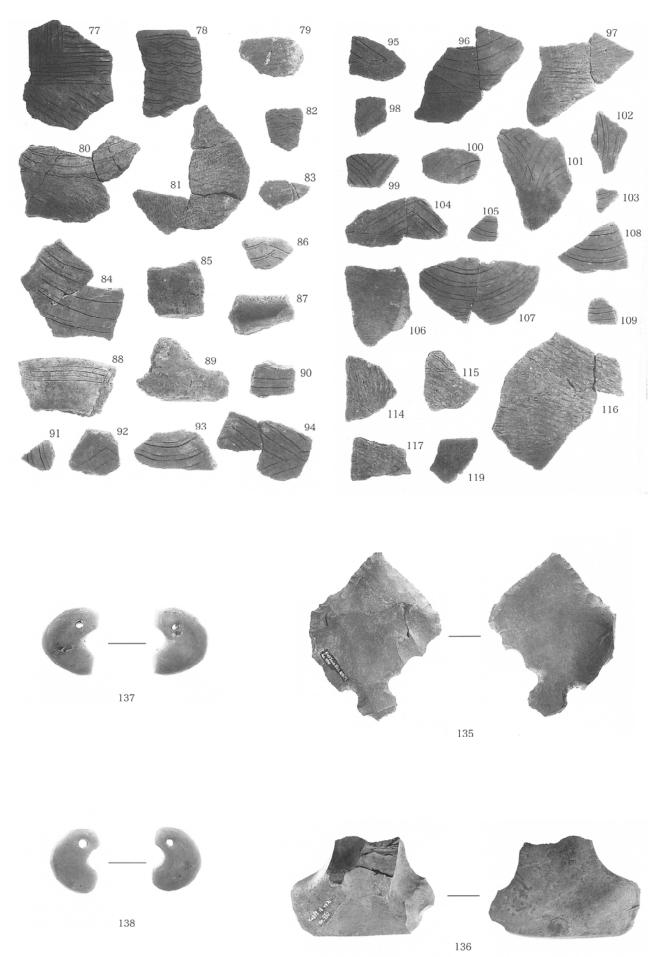
SK9 棺材検出状況④



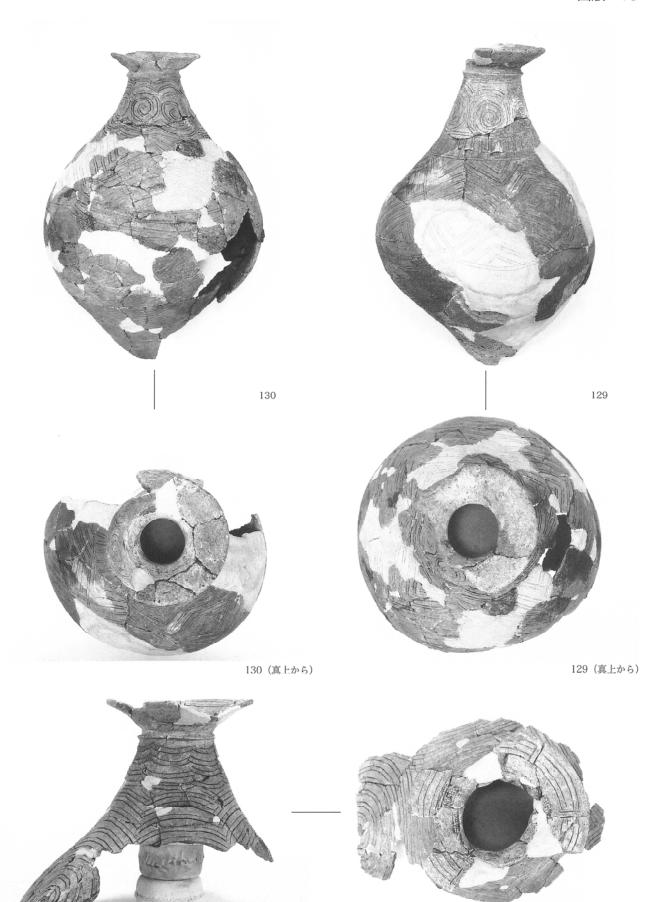




弥生時代出土遺物①



弥生時代出土遺物②



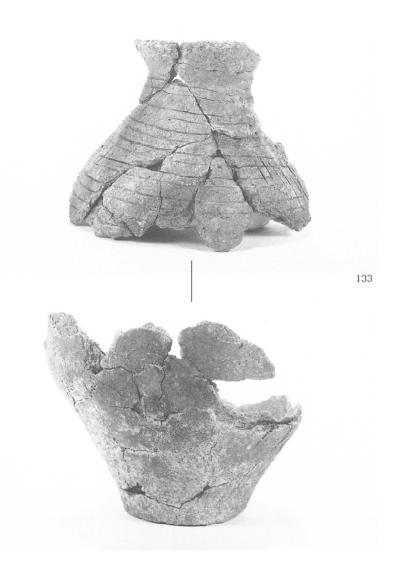
128 (真上から) SK5 出土土器①





126

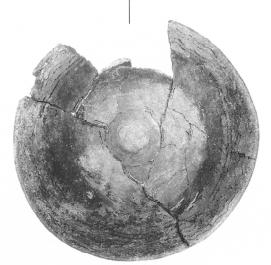
SK5 出土土器②







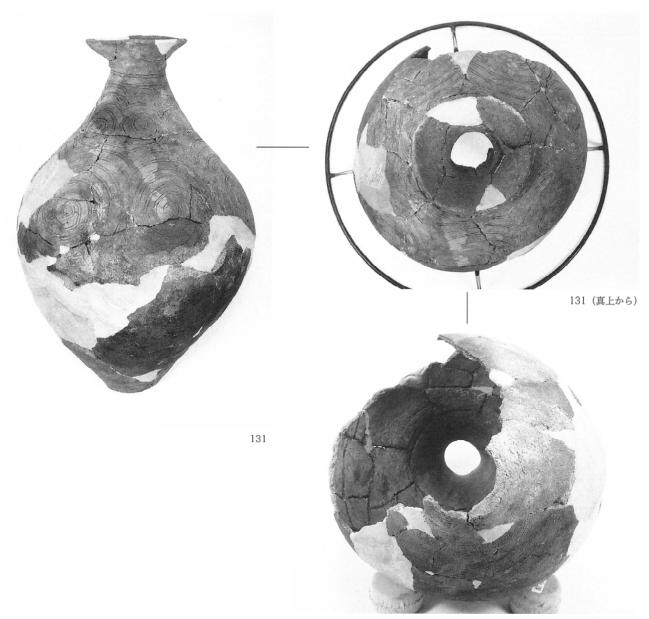
125(真上から)



125 (内面)







131 (底部から)



131 (底部)





134 (底部)





SK10 出土土器①





132 (内面)





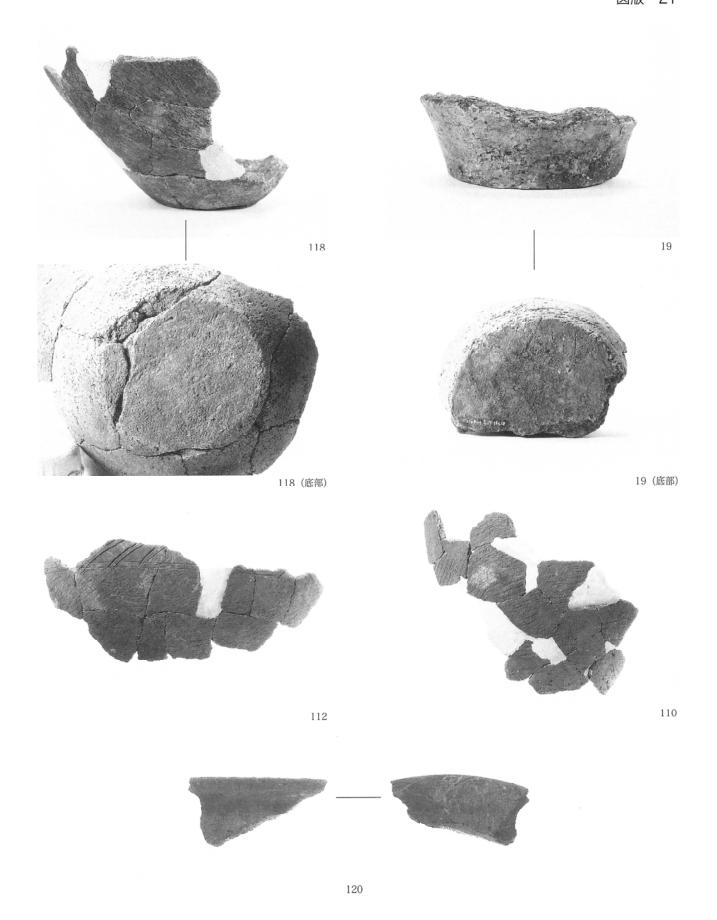
132 (底部から)



132 (底部)

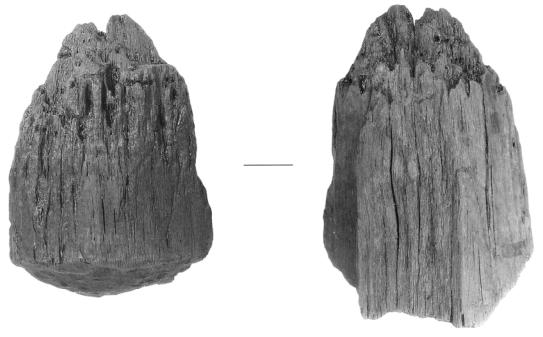


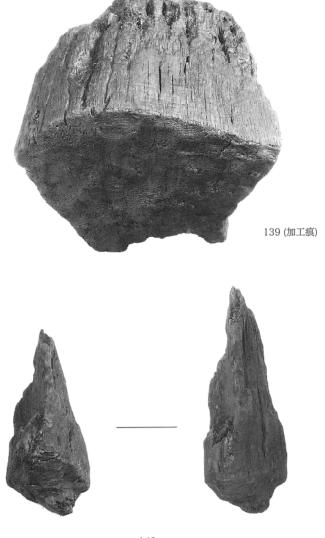
132 (側面)

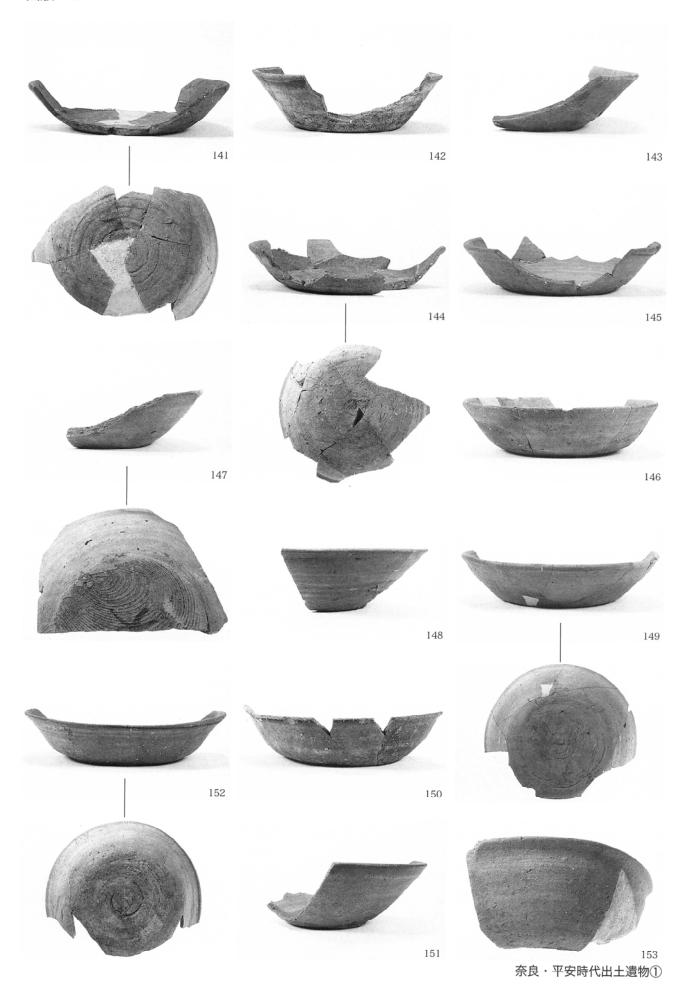


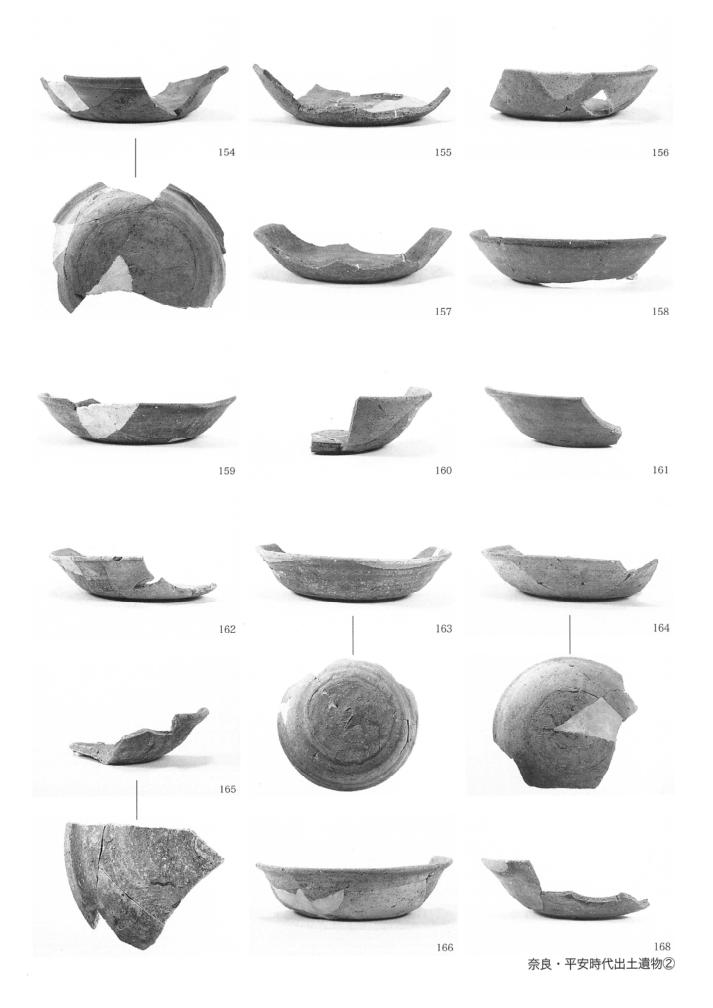


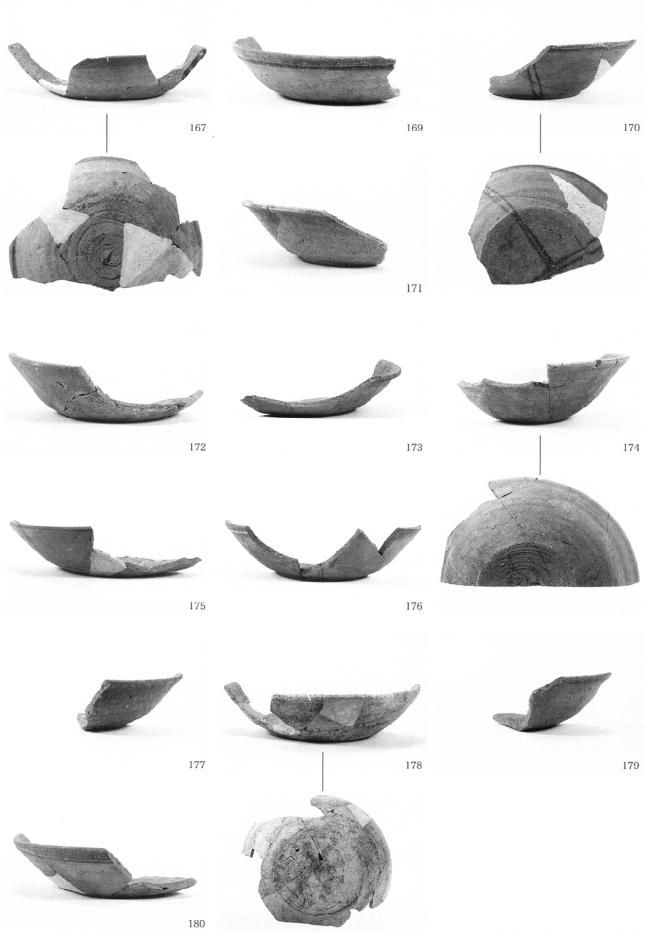












奈良・平安時代出土遺物③